

# 新しい公共ガバナンス推進会議の実施について

## 1 平成30年度実施概要

### ■目的・役割

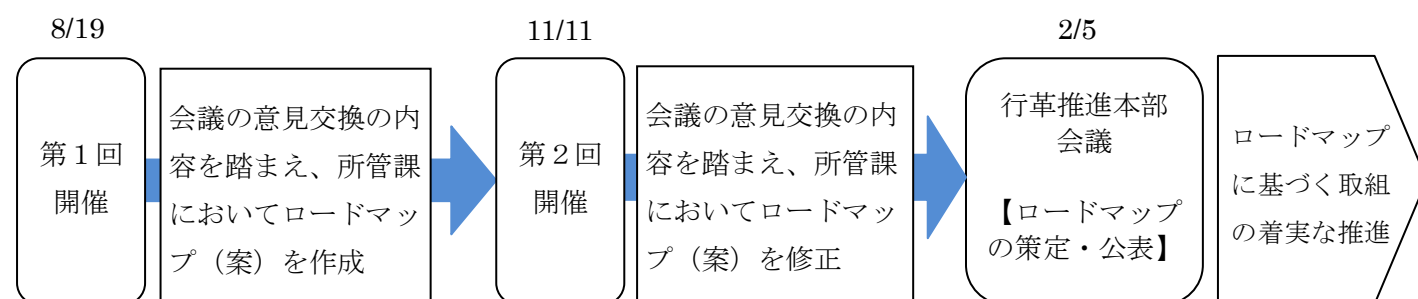
今後、多様化・高度化する市民ニーズや地域課題に、限りある経営資源で的確に対応するためには、行政だけでなく、市民、NPO、企業など多様な主体がそれぞれ役割を担い協働しながら、「公共」の問題に 대응する必要がある。

これら多様な主体の知見や提案をとり入れ、新しい仕組みや制度づくりも視野に入れながら、議論を行い、新しい公共ガバナンスを推進し、公共サービスの改善や地域社会の最適をめざす。

### ■平成30年度意見交換テーマ

- インバウンドの誘客促進に向けた受入環境整備のあり方について
- 多様な主体の連携・協働による学校園における働き方改革について

### ■スケジュール



## 2-1 インバウンドの誘客促進に向けた受入環境整備のあり方についての主な意見・提案

### 【論点①：外国人旅行者の利便性の向上に向けた多様な主体の連携・協働のあり方】

- ・民間事業者や市民、学生などが一体となって、地域に根ざした観光コンテンツの創出やキャッシュレス化をはじめとする利便性の高い決済環境の構築などに取り組む必要がある。
- ・民間事業者との連携により飲食・物販店を含む観光施設を周遊する、堺版はとバスツアーを開催する。
- ・事業者との連携により荷物預かりや宅配便等の仕組みを構築し、手ぶら観光を促進する。
- ・wi-fi やロッカーなどの設置状況を記載した観光サイトやマップ等を整備する。
- ・持続可能な受入環境とするため、wi-fi の整備やメニューの多言語化、通訳の配置など受入環境を整備した事業者に対して、堺伝統産業会館での優先販売など、堺市が持っている施設や資源等を活用したインセンティブを設ける。
- ・様々な業界（ホテル、交通、商店街、学校など）が一堂に会して意見交換を行う場を設ける。

### 【論点②：外国人旅行者に対する「おもてなし」の充実に向けた多様な主体の連携・協働】

- ・在堺外国人や留学生との連携により外国語による観光案内を行う。
- ・浴衣やはっぴ等の日本特有のユニフォームを着用した通訳ボランティアと観光ボランティアが2人1組で観光案内をする。
- ・外国人旅行者に対する「おもてなし」の充実に向けては、長期的には市民が外国人旅行者をもてなす機運の醸成が必要である。
- ・高校生や市民団体が、ダンスや演劇等を発表し地域の魅力を伝えることや、外国人に地域の祭りに参加してもらうなど、市民が一体となってインバウンドに対応することが重要。
- ・外国人留学生を対象にワークショップやアンケートを実施し、堺市の魅力を掘り起こす。
- ・着物や浴衣を着て茶の湯を体験できるようにする。

## 2-2 多様な主体の連携・協働による学校園における働き方改革についての主な意見・提案

### 【論点①：学校を支援する外部人材の活用における多様な主体の連携・協働について】

- ・人材の確保に向け、学校の困りごとやニーズを保護者だけでなく自治会を含む地域の方に広く発信し、理解を得て参画を促す。
- ・サポーターに担ってもらえる業務をさらに明確化するために、業務を細分化する必要がある。
- ・学校内でミスマッチを起こさないために、各学校における外部人材の活用に係るニーズについて、一般の教員が話し合い、学校内で共有する。
- ・外部人材を確保するため、中間支援組織等と連携を図り、人材募集を広く行うとともに、サポーター養成講座を実施する。
- ・学校の実情に関する情報をただ単に発信するだけでなく、子どもや先生たちの為に働き方改革をしているということが分かるような情報発信をしなければならない。
- ・各学校は他の学校が何にサポーターを活用しているのかわからないと思うので、アンケートで得た情報を各学校へ返して、学校に主体的に考えてもらう。

### 【論点②：部活動顧問の負担軽減と部活動の活動内容の向上に向けた多様な主体の連携・協働について】

- ・スポーツクラブ等は、生徒を直接指導するという関わりではなく、生徒に指導を希望する指導者を育成するという形で関わる事ができる。
- ・各種競技の中央組織に指導者の派遣を依頼し、派遣された指導者が、複数の学校の部活動を合同で指導する。
- ・指導者の招聘について、クラウドファンディングを活用するなど市民全体で部活動をサポートする。
- ・卒業生が関わることでできる仕組みを見据えた地域人材の活用を考える。学校と地域が共生できる仕掛けを作っていく。
- ・人材確保のハブとなる組織を構築し、スポーツクラブ等への協力要請をはじめ、人材のマッチングや関係団体との連絡調整を行う。
- ・プロスポーツ選手は教育という点でも素晴らしいノウハウを持っているので、プロから教員に部活動のあり方や指導方法を教える場を設ける。

## 3 平成31年度以降の新しい公共ガバナンス推進会議について ～施策のさらなる推進に向けて～

平成31年度から新たに実施する「(仮称)テーマ型外部点検(※)」においても対象テーマを設定し議論を行う予定であり、多様な主体の連携・協働により地域課題の解決を図るという新しい公共ガバナンスの観点に加え、既存事業の改善・見直し等についても一体的に議論を行うため、「新しい公共ガバナンス推進会議」については、「(仮称)テーマ型外部点検」に統合のうえ、効果的・効率的に実施する。

(※) (仮称) テーマ型外部点検

事務事業評価において、個別事務事業の改善・見直しに加え、事務事業間の連携や行政資源の有効配分等につなげるため、対象テーマを設定し、関連する複数の事務事業をグルーピングのうえ、横断的に点検を実施する。(詳細は資料4参照)